

口之島での離島巡回診療同行実習を終えて

5年 岡谷 知枝

2013年9月27日から29日まで2泊3日(1泊は船内泊)で、口之島への離島巡回診療同行実習に参加しました。口之島は、鹿児島港を出航した村営船「フェリーとしま」が最初に到着する十島村の玄関口で、トカラ列島の最北端に位置します。人口は100人程度で、島は約1時間で一周出来るほどの小さい島です。前々から先輩方の離島巡回診療同行実習の話を聞いて、是非とも行ってみたいと思っていたので、本当に楽しみにしていました。

今回の巡回診療スタッフは、歯科医師・衛生士・研修医それぞれ2名ずつ、歯科医師会の運転手1名、事務の方1名、および私達学生2名の計10名でした。



乗船したフェリー



口の島には、夜11時にフェリーで鹿児島を出発し、翌朝の5時過ぎに着きました。私は、今まで、フェリーに乗って船酔いをしたことがなかったので、酔い止めは飲まずに乗船したのですが、たった6時間の渡航だったにもかかわらず、私も含め数人が船酔いで気分を悪くしてしまいました。

島に着いたら、すぐに宿に行き、朝食を食べて、早速準備が始まりました。診療準備では、歯科巡回診療車であるこじか号の中から、公民館に機材を持ち出してセッティングを行いました。通常のチェアのセッティングならまだしも、ポータブルタイプのエンジンやバキュームなど見たことのない機械ばかりで準備は衛生士さんに任せっきりとなりました。

それから、診療が始まり、私達は先生や衛生士さんの問診や診察を見学しました。患者さんの中には、高齢で耳が遠くて補聴器を付けているという方もおられました。たいへん元気な様子で、どの方も実年齢よりも若々しく見受けられました。衛生士さんが、患者さんのペースに合わせて的確に問診をとっておられる姿がとても参考になりました。

歯科診療の機材は、大学病院のものに比べると不便さはあるものの、最小限の器具で最大限の治療を施そうとする先生や衛生士さんの姿勢や手際の良さに驚かされっぱなしでした。私達は、先生による義歯の調整、銀冠の調整、ならびに口腔内清掃を見学しながら、子供たちには歯ブラシゲル法でフッ素塗布の手伝いをしました。

島には歯科医院はないということでしたが、義歯を装着しておられる方は「鹿児島市で作った義歯を20年使っているが痛みもなく気に入っている」、子供の親御さんは「鹿児島市でシーラントをした」等、歯科医院がないからこそ、意識的に予防歯科に取り組んでおり、毎日のケアも丁寧にされている印象でした。

歯科以外にも、腰が痛いといったおばあさんが来られて、地元の看護師さんが診ておられました。その看護師さんは、今まで診た患者さんをノートに記録しておられ、地元の看護師さん達のお陰で、島の方々の健康は守られているのだなと実感しました。

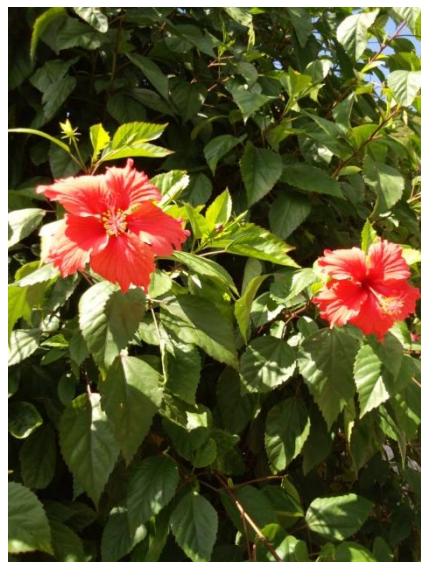
さて、口之島では、歯科治療以外にも、島の温泉に入ったり展望台に行ったり野生牛を見たり、自然を満喫することもできました。

島の人たちも、見慣れない私たちに挨拶をしてくださったり、気軽に声をかけてくださって嬉しかったです。また、お宿の女将さんもたいへんお世話になり、最後は別れが惜しく感じました。

今回、短い期間でしたが、このような貴重な体験ができて本当に良かったです。また、機会があればぜひ行きたいと思います。

最後になりましたが、お世話になった島の皆様、先生方をはじめとしたスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

この貴重な体験をこれからの歯科医療に生かしていきたい思います。



口の島の豊かな自然